

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 18 年 8 月 10 日 (2006.8.10)

【公表番号】特表 2002-522993 (P2002-522993A)
 【公表日】平成 14 年 7 月 23 日 (2002.7.23)
 【出願番号】特願 2000-564413 (P2000-564413)
 【国際特許分類】

H 0 4 R 1/10 (2006.01)

H 0 4 R 1/22 (2006.01)

H 0 4 R 23/00 (2006.01)

【F I】

H 0 4 R 1/10 1 0 4 E

H 0 4 R 1/10 1 0 1 B

H 0 4 R 1/22 3 1 0

H 0 4 R 23/00

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 6 月 16 日 (2006.6.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

図 3 は、既に先に短く説明したあぶみ状あご懸吊受信機の受信部のあぶみ状端部 2 7 の位置に依存するオン / オフ回路を示す。切替レバー 6 によって制御されるスイッチ 5 が、基礎ハウジング内に配置された導電板 1 4 と回路技術的に左右に連動するならば、この切替レバー 6 の位置決めが、それに対応して取付けられたバネ 9 によって可能になる。このバネ 9 は、1 枚のストッパ板 8 と導電板 1 4 の側面との間に保持される。この場合、このストッパ板 8 は、この切替レバー 6 の構成要素である。弾性力を付けられた回転移動部 1 2、すなわち開閉位置の変位制限部として、別のストッパ 8 a が、あぶみ状部の端部 2 7 の平面内で使用される。このストッパ 8 a は、上述した切替レバー 6 のストッパ 8 のストッパ面と同じ面にある。このストッパ 8 a は、基礎ハウジングの側方縁部 1 3 によって固定されている。この切替レバー 6 は、対応するレバー作用部を介して基礎ハウジングの上端部 1 0 に対して配置されて回転可能に軸支されている。あぶみ状端部 2 7 の停止状態では、両ストッパ板 8、8 a がバネ 9 によって接して押付けられている。開置位置 1 2 では、あぶみ状端部 2 7 があぶみ状あご懸吊受信機の装着位置を構成する新しい位置 2 7 a をとる。この場合、切替レバー 6 の下端部がスイッチ 5 に接触する程度に、バネ 9 がわずかに圧縮される。スイッチ 5 があぶみ状端部 2 7 の回転運動 1 2 によって作動するとすぐに、このスイッチ 5 に作用接続している導電板 1 4 のスイッチが受信の目的で即座にオンする。これらのあぶみ状端部 2 7 の停止位置では、その受信が遮断されている。これらのあぶみ状端部 2 7 は、バネ 9 を 1 つずつ有し、かつそれに対応するストッパ板を有する。その結果、都合の良い対称な弾性部が形成され得る。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

ここで説明したヘッドホンは、分かりやすさの理由から赤外線信号による作動に焦点を合わせた。したがって、このヘッドホンが、当然にその他の例えば電波による信号から成る無線信号を受信して変換するためにも使用され得ることを決して否定するものではない。このとき、特別な電子構成要素がそれぞれの状況で異なるだけである：しかしながら、信号で条件付けられたこれらの適合は、説明した本発明のヘッドホンの基本構造を何ひとつ変更しない。